伯牙絶弦

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／27）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は「巍巍・湯湯」の読み、部分否定「不復」、そして「以為らく」に書かれた琴をやめた理由**です。

あらすじ＝琴の名人伯牙が、心に高い山を思い描いてひくと、友の鍾子期は「太山のようだ」と言い当て、流れる水を思い描いてひくと「流水のようだ」と言い当てた。鍾子期が死ぬと、伯牙は琴をこわして弦を断ち切り、一生二度と琴をひかなかった。自分の琴を聞かせる値打ちのある人は、もう世にいないと思ったからである。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

伯牙（はくが）①琴（きん）を鼓（こ）し、鍾子期（しょうしき）②之（これ）を聴（き）く。琴を鼓するに③方（あ）たりて、④志（こころざし）太山（たいざん）に在（あ）り。鍾子期曰（い）はく、「⑤善（よ）きかな琴を鼓すること、⑥巍巍乎（ぎぎこ）として太山のごとし。」と。⑦少選（せうせん）の間（あひだ）にして志流水（りうすい）に在り。鍾子期又（また）曰はく、「善きかな琴を鼓すること、⑧湯湯乎（しやうしやうこ）として流水のごとし。」と。

鍾子期死（し）す。伯牙⑨琴を破（やぶ）り弦（げん）を絶（た）ち、⑩終身（しゅうしん）⑪復（ま）た琴を鼓せず。⑫以為（おもへ）らく、世（よ）に復（ま）た⑬為（ため）に⑭琴を鼓するに足（た）る者（もの）無（な）しと。

語注　伯牙＝春秋時代の人と伝えられる琴の名手。鍾子期＝伯牙の友。伯牙の琴をよく聞き分けた。琴＝胴に弦を張り、指ではじいて鳴らす中国の弦楽器。太山＝泰山（たいざん）のこと。今の山東省にある名山。流水＝流れる水。川の流れ。弦＝楽器に張った糸。※後漢の高誘（こうゆう）の注では、伯牙・鍾子期はともに楚（そ）の人とされる。※白文の「善哉乎鼓琴」の「乎」は、ここでは読まない形で書き下した（「哉乎」の二字で「かな」と読むとする本もある）。「絶弦」を「絶絃」と書く本もある（同じ意味）。「琴を鼓するに方（あ）たりて」を「方（まさ）に琴を鼓して」と読む本、「少選の間（あひだ）」の「間」を「かん」「ま」と読む本、「琴（きん）」を「こと」と読む本、「善きかな」を「善いかな」と読む本など、読み方が教科書によって少しちがうことがある。お使いの教科書に合わせること。

A　語句の意味と読み（1〜6）

（1）①「琴（きん）を鼓（こ）し」の「鼓」の意味を書け。

（2）③「方（あ）たりて」のここでの意味を書け。

（3）⑥「巍巍乎（ぎぎこ）として太山のごとし」の「巍巍」の意味を書け。

（4）⑦「少選（せうせん）の間（あひだ）にして」の「少選」の意味を書け。

（5）⑧「湯湯乎（しやうしやうこ）として流水のごとし」の「湯湯」の読みを現代仮名遣いで書け。また、その意味も書け。

（6）⑩「終身（しゆうしん）」の意味を書け。

B　句法（7〜12）

（7）⑤「善（よ）きかな琴を鼓することよ」の「かな」は、どのような意味を表すか。句法の名もあわせて書け。また、この句はふつうの語順をどのように入れかえた形か書け。

（8）⑧「湯湯乎（しやうしやうこ）として流水のごとし」の「ごとし」と読む字は、白文では何という漢字か。その字を書き、意味・用法も書け。

（9）⑪「復（ま）た琴を鼓せず」の「不復〜（復た〜ず）」の意味を書け。また、語順が逆の「復不〜（復た〜ず）」とのちがいも書け。

（10）⑪「復（ま）た琴を鼓せず」の白文は「不復鼓琴」である。書き下し文にしたがって返り点をつけよ。

（11）⑫「以為（おもへ）らく」は、「以」と「為」を一字ずつ分けて読むこともある。その読み方と意味を書け。

（12）⑭「琴を鼓するに足（た）る者（もの）無（な）しと」の「〜に足る者無し」の意味を書け。

C　主語・指す内容（13〜16）

(13) ②「之（これ）を聴（き）く」の「之」は何を指すか。

(14) ④「志（こころざし）太山（たいざん）に在（あ）り」とあるが、心が太山に向いていたのは誰か。

(15) ⑫「以為（おもへ）らく」とあるが、そう思ったのは誰か。

(16) ⑬「為（ため）に」とあるが、どのような人のためにということか。本文の内容に即して書け。

D　口語訳（17〜20）

(17) ③④を含む「琴を鼓するに方たりて、志太山に在り」を口語訳せよ。

(18) ⑤⑥を含む「善きかな琴を鼓すること、巍巍乎として太山のごとし」を口語訳せよ。

(19) ⑨⑩⑪を含む「伯牙琴を破り弦を絶ち、終身復た琴を鼓せず」を口語訳せよ。

(20) ⑫⑬⑭を含む「以為らく、世に復た為に琴を鼓するに足る者無しと」を口語訳せよ。

E　内容・記述（21〜24）

（21）④「志（こころざし）太山（たいざん）に在（あ）り」とは、どのようなことか。説明せよ。

（22）⑥と⑧の鍾子期の二つの言葉は、何を言い当てたものか。また、場面を二つ並べることで何がわかるか。説明せよ。

（23）⑨「琴を破（やぶ）り弦（げん）を絶（た）ち」とあるが、伯牙がこのようにしたのはなぜか。四十五字以内で書け。

（24）『呂氏春秋』では、本文の直後に「琴だけがこうなのではない。賢者もまた同じである。賢者がいても、礼をもって迎えなければ、賢者はどうして真心を尽くすだろうか」という意味の文が続く。これをふまえると、⑭「琴を鼓するに足（た）る者（もの）無（な）しと」思って琴をやめた伯牙の話は、どのような考えを示すたとえになっているか。説明せよ。

F　文学史・故事（25〜27）

（25）この話の出典の書名と、その書物を編ませた人物の名を書け。

（26）⑥⑧のように伯牙の琴の音をよく聞き分けた鍾子期の話から、自分の心を深く理解してくれる親友を何というようになったか。漢字二字で書き、読みも書け。

（27）⑨「琴を破（やぶ）り弦（げん）を絶（た）ち」からできた四字の故事成語を書き、その意味も書け。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「湯湯」は「しょうしょう」。「とうとう」と読むと即アウト。「巍巍（ぎぎ）＝山が高い」「湯湯＝水が勢いよく流れる」をセットで覚える。　**❷「不復〜」は「二度と〜しない」。**「終身復た琴を鼓せず」＝一生二度と琴をひかなかった。語順が逆の「復不〜（今度もまた〜しない）」とのちがいがねらわれる。　**❸琴をやめた理由は最後の一文。**「以為らく、世に復た為に琴を鼓するに足る者無しと」＝自分の琴を聞かせる値打ちのある人はもういない。記述問題の答えはここに集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる